

議員研修視察報告書

1. 研 修 日 令和6年7月23日（火） 10:00～17:30

2. 研 修 先 奈良県宇陀市役所
奈良県宇陀市榛原下井足 17 番地の 3

3. 研修参加者

役 職	氏 名
議 長	千福 清英
副議長	田村 陽
議 員	井上 浩一
議 員	徳丸 初美
議 員	服部 幸令
議 員	吉田 昭之
議 員	藤浦 稔
都市整備課係長	谷口 二郎
議会事務局長	柏原 美佳
議会事務局書記	土井 達也

4. 宇陀市役所
研修対応者

- ・ 宇陀市議会議長 多田 與四朗
- ・ 宇陀市政策推進部長 鈴木 隆仁
- ・ 宇陀市政策推進部政策推進課長 藤田 茂樹
- ・ 宇陀市政策推進部政策推進課主査 川本 悠

5. 研修目的

- ・ 宇陀市の地域公共交通の取り組みについて

6. 当日の質疑応答

Q：宇陀市の自動運転の実証実験の実績、今後の本格導入までの計画課題について、ご教授願いたい。

A：令和5年12月に自動運転バスの実証実験を行った。目的は、通院や買物などの日常生活を支える移動手段の確保。乗車人数は約1,000人。住民の声として、無料で乗車できたこと、自動運転バスに対する興味があった事が挙げられ

る。走行するにあたり3Dマップを作成する。(約7割～8割正確な地図) また、3Dマップの補完として、GPSの機能を利用する。問題になったのは、障害物を避けるためにセンサー用のカメラを設置するが、歩道の樹木等にセンサーが反応し、バスが停止する事象があり、急遽、樹木の剪定をした。市が管理している箇所は素早く対応したが、近隣住民の所有箇所は手が回らなかった。センサーに反応する障害物は、雪、雨も考えられる。さらに勾配が急な坂道を走行時、バッテリーの消耗が激しい等の課題がある。来年度も実証実験する。

Q：有償バスを運営するにあたり、国や県の補助金の有無について、運転手の確保はどのように実施しているか。

A：「かぎろひバス」について、国や県の補助金はどちらも受けている。

Q：「かぎろひバス」の運転手の免許は、普通免許か。また、自動車のナンバーは普通ナンバーか。

A：運転手は講習を受ける必要があるが、普通免許。「かぎろひバス」は、自家用有償運送になるので、普通ナンバーである。

Q：「かぎろひバス」の予約の受付やバス自体の運行管理は誰がしているか。

A：予約の受付及び運行管理は、まちづくり協議会が行っている。

Q：ライドシェアの議論はしているか。

A：議論している。運転手の確保が課題。タクシーの台数が限られている中で、マイカーの利用を検討している。

Q：まちづくり基本理念のウェルネスシティをどのように地域公共交通に反映されているか。

A：体の健康だけでなく、心の健康全てに取り組むことを福祉部局が中心に進めているなかで、健康になれるまちづくりを目指すことを一つの構想として、いろいろな場所に出掛けることで心身ともに元気になることから、地域公共交通を充実させようと考えている。

Q：ライドシェアと自家用車有償運送の違いは何か。

A：ライドシェアは、海外版ライドシェアと日本版ライドシェアがある。海外のライドシェアは、個人で料金設定し管理する。日本版ライドシェアは、事業者協力型自家用旅客運送。マイカーを利用するが、運行管理はバス会社、タクシー会社のような事業者。今回、検討しているライドシェアは、日本版ライドシェア。

宇陀市議会議長 挨拶



千福議長 挨拶



政策推進部長



政策推進部政策推進課長



研修風景



田村副議長 挨拶

